

発行代表者：鎌田 龍児

編集代表者：入江 陽子

印刷：奥野印刷

2016.02

関西岩手県人会

〒530-0001 大阪市北区梅田 1-3-1-900 大阪駅前第 1 ビル 9F 岩手県大阪事務所内

【TEL&FAX】 06-6344-5969

【ホームページ】 <http://www.iwate-kansai.com/>

—平成 28(2016)年度総会・新春懇親会

創立 70 周年に向け新たな一步



昨年は創立 60 周年の記念行事を無事済ませた。今年は例年通りスーパードライ梅田での恒例行事に戻った。

＜総会：11 時 15 分開始＞

藤井勝副会長の司会で鎌田龍児会長の議長の下、深田稔副会長兼事務局長の議案説明があった。

◎ 1 号議案：平成 27 年度の行事総括と決算報告で、創立 60 周年記念式典と関西岩手県人会 60 周年誌の内容説明、2 年にまたがる創立 60 周年記念特別会計が主題であった。会員の多額のご寄付があり、余裕をもって 60 周年記念行事を終えた。

◎ 2 号議案：東日本大震災 5 周年街頭募金および防災シンポジウムの開催、三陸沿岸被災地視察旅行を計画。このうち、宮城県人会との合同募金は今年度をもって終了予定。

◎ 3 号議案：創立 60 周年の特別会計の解散および剰余金 95,829 円の平成 28 年度会計への繰り入

れが提案され、1 号、2 号議案と共に承認された。

終了後、総会出席者およびご来賓ならびに時間待ちの総会出席者を交えて記念撮影を行った。

＜新春懇親会：12 時より開始＞

◎ ご来賓：岩手県庁の商工労働観光部の菊池哲（あきら）副部長と随行員の商工企画室の小野寺拓主事、それに大阪国際大学国際コミュニケーション学部佐島隆教授（いわて文化大使、奥州市）の 3 名

◎ 黙祷：平野良夫幹事の司会により、最近亡くなられた会員のお名前を読み上げ、また東日本大震災犠牲者を悼み全員起立して黙祷した。

◎ 挨拶：鎌田会長より今年度の抱負が述べられた。（要旨）東日本大震災 5 周年行事として、3 月 13 日（日）に大阪国際会議場で「防災シンポジウム」を開催する。これは東日本大震災に際し大きな支援を受けた大阪府および大阪府民への恩返しの意味があり、大阪の方に将来の大地震に備えて「津波の恐ろしさ」を知ってもらいたい、という趣旨で、復興関係の話は除外し「津波の脅威」を強調する。大阪御堂筋本町ロータリークラブとの共催で、金銭的にはロータリーに全面的に協力ねがい、当方で企画・人選・交渉等汗をかいた。

とき：2016 年 1 月 24 日（日）

ところ：スーパードライ梅田（大阪市内）

参加者：58 人

今年は役員改選の年である。創立 60 周年記念行事を円滑に進めるために、一昨年臨時の措置として役員の任期を 2 年間延長した。1 年以上の準備をしていただき創立 60 周年を祝うことが出来たことを改めて感謝する。今後 70 周年に向けて新たな一步を踏み出しが、新役員体制として、次の 10 年を担う有能な方々を皆さんのがんばりを傾けて選んでいただきたい。

◎ 祝辞：ご来賓を代表して菊池哲副部長が達増拓也岩手県知事の祝辞を代読された（別掲）。今年は岩手も暖冬であるが数日前から寒くなつた。暖かい大阪に来たと思っていたら寒くて驚いた。釜石の橋野鉄鉱山が世界遺産となり、平泉と二つの世界遺産を持つことになった。商工労働観光部に所属する自分としても大いに岩手のファンの増加に取り組むと抱負を述べられた。

◎ 乾杯・新会員紹介：出席者のうち初めて行事に参加した皆さんが紹介された。乾杯は京都岩手県人会の佐藤耕吉副会長で、乾杯に先立ち、京都岩手県人会も来年 35 周年を迎える。お見受けしたところ

ご年配の方が多いが、どこの県人会も若い方の参加が課題であると述べた。その後しばらく会食となつた。

◎ 余興：最初に 93 歳の佐藤俊三さんの踊り、「南部蟬しぐれ」が披露された。昨年怪我をされてほぼ 1 年ぶりの登場であるが、以前と変わらぬしっかりとした足取りで会場からやんやの喝采を浴びた。その後は菊地敏博さんの「オーラ・ソレ・ミヨ（私の太陽、ナポリの民謡）」の重厚な歌声を皮切りに 8 名のカラオケが続き、途中で打ち切りを宣言するほど盛り上がつた。

◎ 福引：鎌田会長のご友人が丹精込めて作ったお米と役員のカンパを源資とする商品券が景品であった。当った人の歓喜の声があがり、しばし楽しいひと時を過ごした。幸か不幸か今年は出席者が少なく全員が景品を手にした。

◎ 中締め＆手土産：最後に藤井副会長の中締めで散会となり、それぞれ郷土の銘菓を手にして帰られ、平成 28 年度の総会、新春懇親会は無事終了した。（事務局）



祝　　辞

平成 28 年 1 月 24 日

岩手県知事
達増 拓也

関西岩手県人会 平成 28 年度総会並びに新春懇親会の開催に当たり、お祝いを申し上げます。

皆様には、希望に満ちた新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

また、ふるさと岩手の発展のため、日頃から多大なる御支援、御協力を賜り、特に、東日本大震災津波からの復旧・復興に対して数多くのお力添えをいただいておりますことに、改めて心から御礼申し上げます。

さて、東日本大震災津波の発生から間もなく 5 年を迎えようとしております。

昨年は、陸前高田市で稼働していた土砂運搬用の巨大ベルトコンベア「希望のかけ橋」がその役目を終えるなど、沿岸被災地の嵩上げ工事が進み、そうした中、県立高田高校の新校舎の完成や、仮設商店街の新店舗への移転が進んだほか、三陸沿岸道路も着実に完成に近づきつつあります。本格復興をやり遂げるという強い意志を込めて、本年を「本格復興完遂

年」と位置付け、今年も「復興第一」に取り組んで参ります。

また、昨年 7 月には、釜石市の橋野鉄鉱山が新たに世界遺産に登録され、既に登録されている平泉と合わせ、岩手県は二つの世界遺産を有する、全国的にも数少ない県となりました。これを契機に、岩手ファンのさらなる拡大を図りたいと存じますので、一層の御支援を賜りますとともに、大震災からの復興のための国家プロジェクトとして非常に重要な事業であり、大きな経済効果が期待される国際リニアコライダーの建設についても、その実現に向け、御支援、御協力を賜りますようお願いいたします。

いよいよ今年は、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会が開催されます。岩手県での国体開催は、昭和 45 年以来 46 年ぶりであり、本大会と 1 月 27 日に開会する冬季大会の全競技を岩手で実施する「完全国体」となります。また、震災後初の被災地での開催でもあり、全国の皆様に復興支援への感謝を表し、復興のシンボルとなるよう県民一丸となって取り組んでおりますので、皆様におかれましても、郷土で開催される国体の成功に向けて、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が、関西岩手県人会の皆様にとって素晴らしい年となりますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



平成 27 年度 桐の会の開催 ～会則制定と新役員決定～

とき：2015年11月21日(土)

ところ：和風料理・狐山茶屋(西宮北口)

参加者：15人(男子3人含む)

桐の会(女子会)の歴史は古く、昭和49(1974)年4月に岩手郷友会婦人部として発足した。当初は春と秋に開催していたとのこと。最近は県人会事務局の不手際により、桐の会へ女性会員の入会連絡を怠っており、桐の会の存在を知らない方が増えていた。

そこで、平成27年度第2回役員会にてこの問題を提起し、家庭の事情で辞退された渡部芳さんに代わり堯律子さんに再登板していただくのを契機に、事務局が女性会員の名簿を整備し通信事務を代行して桐の会を支援することにした。また、従来会則はなく世話を互選して運営されていたようであり、簡単な会則案および候補者の了解の下に新役員一覧を準備、また今後の出席可否をたずねたアンケートを行い結果も持参した。

懇親会の前に会則および新役員の議案が審議され、両議案とも全出席者の賛同を得て承認された。アンケートは62通発送のうち、①毎回参加したいが10名、②参加不確かだが案内は欲しいが21名、③残念ながら病気、高齢、多忙で案内不要が13名であった(返信なし18名)。今後は①と②の31名にのみ案内することになるが、事務局に連絡いただければ返信忘れの方および多忙で不要と回答の方にもご案内させてもらうつもりである。

その後懇親会に移り、近況報告など和やかな歓談の時間を持った。体が弱く医者の警告があったにも関わらず子供を産み、今では孫が10人、と女性ならではのお話に感心したり、大正生まれの90歳と89歳と聞いて、そうとは思わず圧倒されたりもした。その他参加した皆さんとのことを知ることが出来て楽しかった。

帰りに、堯会長より今回参加された方に「お礼」として手土産が配られた。会長のお心遣いに感謝したい。

(事務局 F 記)



【桐の会々則】

第1条 本会は桐(きり)の会と称する。

第2条 本会の構成員は関西岩手県人会名簿に登録された女性会員とする。なお、希望すれば上記以外でも役員過半数の承認の下に入会できる。

第3条 本会は関西岩手県人会名簿に登録された女性会員の相互親睦を図り、且つ関西岩手県人会の諸活動へ参加および支援することを目的とする。

第4条 本会は事務所を会長又は幹事長の自宅に置く。

第5条 本会は年に一回総会(懇親会)を開く。なお、必要に応じ臨時総会(懇親会)を開くことができる。

第6条 本会に次の役員を置く。

会長 1名

副会長 2名

幹事 若干名

(うち1名を幹事長とする)

監事 1名

顧問 若干名

役員は総会において選出し、任期は2年とする。但し再任は妨げない。

第7条 会長は本会を統括する。副会長は会長を補佐し、会長に支障ある時は代理する。幹事は会務(企画、会計)を行う。監事は会計を監査する。顧問は適宜相談に応じる。

第8条 本会の経費は、その都度の会費及び寄付金の収入をもって充てる。

第9条 本会の会則を変更する場合は、総会の議決を要するものとする。

制定 平成27(2015)年11月21日

【桐の会役員】(平成27(2015)年11月21日現在)

- ◎ 会長：堀律子(出身地：陸前高田市／現住所：西宮市)、
- ◎ 副会長：鈴木綾子(大船渡市／守山市)、立花則子(住田町／東大阪市)、◎幹事：千葉たみ子(奥州市／奈良市)、南亮子(盛岡市／大阪市)、金本栄子(大船渡市／大阪市)、◎監事：竹田修子(紫波町／神戸市)、◎顧問：溝井まさ(紫波町／神戸市)

いわて希望の物産展で 18,071 円の義援金集まる

阪急豊中駅に隣接するエトレ豊中で、おにぎり・惣菜店／五飯を営む澤田龍氏（いわて文化大使）は、「江刺・ひとめぼれ」をはじめ岩手の食材を使用したおにぎり・惣菜を販売し、また物産展を開催し岩手県を PR してくれている。

昨年 11 月にも関西岩手県人会と五飯との共催および岩手県産（株）、梨忠商店（洋野町）の協力を得て 3

日間にわたり物産展を開催した。募金箱を置いて東日本大震災の復興支援を呼びかけたところ、それまでの五飯店頭分を合わせて 18,071 円が集まった。心温まる義援金は澤田店主が常々気遣っている震災孤児へ向けて「いわての学び希望基金」にご寄付いただいた。

（事務局記）

大槌高校の虎舞 初春に舞う！豊中市消防出初式



1月10日(日)豊中市北桜塚の大門公園で、豊中市消防出初式が行われ、大槌町の向川原虎舞が勇壮な舞を披露した。豊中市は、震災直後、緊急消防援助隊 60 人を急派したのをはじめ、市職員を大槌町に派遣するなど様々な支援を行っているが、特に大槌高校とは桜塚高校の生徒がボランティアバスで同校を訪れたのを契機に交流が始まり、両校の校章がサクラであることなどから、交流を続けていくことを誓い合う「さくら協定」を結び、野球の交流試合を行う等友情を深めてきた。今回も向川原虎舞に参加している大槌高校の生徒 11 人を中心としたチームが、豊中市の招きで訪れたもの。豊中駅前でおにぎりの「五飯」を営む

会員の澤田龍さんから連絡をいただき、当日の取材でも大変お世話になった。「矢車」「跳ね虎」「笹喰み」など虎の所作が、時にユーモラスに時に激しく演じられると、公園の周りをぐるりと取り囲んだ市民から盛大な拍手が送られた。津波で祖母の清子さんを亡くしたリーダー千葉陽斗君（3年）は「こんなに多くの人たちの見つめる中で舞うことができてとても感動しています。虎舞は大槌の大好きな伝統芸能なので、若い僕らが受け継ぎ一生懸命頑張っていくことで町の復興にも必ず弾みがつく信じています」と、頬もしく話してくれた。前をしっかり見つめている高橋君の瞳の輝きが、青く晴れ上がった空の下で眩しかった。（鎌田記）



～方言考～

「あめゆじゅ とてちてけんじや」

会員隨想

花巻ご出身で現在は滋賀にお住まいの会員、佐々木伸行さんに、ふるさとの方言についての考察を語っていただきました。

津軽弁アナウンサー・伊奈かっぺいさんは津軽弁には母音が10個あると言う。数は意識した事は無いが東北弁の母音は“アイウエオ”5音ではとても表せない。その上子音も独特の発音が多くまた地方により違う。標準語のかな文字で表すのは到底不可能である。

昭和34年(18才)愛媛に就職し、以来帰る事の稀な故郷は懐しい存在である。特に小中学校を過ごし、ダムに沈み無人となった豊沢は…。

定年を迎える、またネットの環境が整い、その上で故郷を探すとき、宮沢賢治をキーワードとして検索すると、ただ地名等による検索より故郷の情報が多い。そして多くの故郷の言葉に遭遇するが、一つの謎は、「永訣の朝」のトシのリフレイン「あめゆじゅとてちてけんじや」の“ケンジヤ”的部分である。

「あめゆじゅとてちてけんじや」、永く深く埋め、封じてきた私の方言・花巻弁は、掘り出した土器片のように不完全だが、んの部分を除きほぼ語感のイメージ復元は可能と思う。だが、「…けんじや」は判らない。聞いた記憶が無い。

賢治の生徒の奥さんの言(映画)で「けんじよう」と言う丁寧な言い方がある、と言っていたが、それならば花巻音では「…けんじょ」と成ると思う(少なくとも“じゃ”にはならない)。それも聞いた事はない。色々考えるが私にとっての花巻弁では「…けて(で)じゃ(じえ)」が自然だ。(＊力行夕行は語頭以外(鼻)濁音化する)。

しかし、トシの声だけを方言にした、この詩を読む時、賢治は、妹の声を、最後の声を“留め

たい、聞こえた(感じた)とおりに残したい、”との思いさえ私は感じるのだ。

推測して見る。「あめゆじゅとてちてけんじや」最後の部分普通の花巻弁で“とてちてけて(で)じゃ”は発音に息の力を要する音の連続である。肺を病み、臨終近いトシの息では発声が辛い。最後“て(で)”の音がよく出ない(聞き取れない)。それを賢治は“ん”と記した…と。

実験して見る、息を吐き切ってから詠んで見る、確かに“て(で)”の発音は辛い。それでも、私の肺は強いほうだ(70歳を超えた今も肺活量5,000ccは有る)。どれだけ近づけたのかは判らない。

ネット上のこの詩の朗読を探し、片っ端から聞く。どうも納得いくものが無い。関西在住の岩手県出身の方の朗読も聞きにいった。どなたにとってもナゾの部分なのでしょう。

ネット動画に草野心平さんの朗読を見つける。この老詩人のものが私には一番ぴったりくるものだった。東北弁でもないこの朗読に、その息遣いに賢治が残したかった、妹の最後の言葉を思ったのです。

56年前に地中に封じていた私の花巻弁は、欠損部分の多い、しかし、それゆえ、時代の影響(テレビの発達、交通手段の発達、教育などに影響されて知らぬ間に変わって行く)を受けずに来られたのかも知れない。離れてしまったからこそ、固定されたままだと感じる事が有る。

追悼

常任幹事・濱本昌範さん逝く

平成 28 年 1 月 1 日
享年 71 歳

大阪出身の濱本さんは、岩手大学工学部に学び盛岡で 4 年間の学生生活を送りました。そのご縁で早くから本会々員となり、昨年の創立 60 周年記念式典では 30 年以上の永年在籍者表彰を受けました。平成 19 年からは本会幹事および常任幹事として、また関西宮沢賢治の会の幹事として、会の運営および様々な行事に率先して参加され極めて有能な存在でした。これからまだまだご活躍されるはずであったのに誠に残念でなりません。

病気のこととは詳しく話してくれなかったのですが、昨年 1 月の第 1 回役員会に久しぶりに来られて、創立 60 周年への多額なご寄付および宮沢賢治の会の会費 10 年分を払ってすぐ帰られた時、その場にいた人は皆病状のただならぬものを感じていました。更に、東日本大震災 4 周年の街頭募金にも来られ、募金活動をするというのを、鎌田会長以下みんなで説得し帰ってもらいました。それから夏の暑いころ、「退院して自宅から通院中」の便りをいただきましたが、今回とうとう訃報に接することになりました。

お通夜および告別式で、ご子息の周造氏が大変心に響く立派なご挨拶をされました。『賑やか好きの父にふさわしく、元旦の午後 3 時に家族みんなに見守



られながら静かに旅立ちました、初孫（お姉さんのお子さん）を抱けたのがせめてもの慰めです。父は病床で「ほんとに良い家族に恵まれた」といい、最後の言葉は「ありがとう」でした。奥様およびご息女が考えたという会葬御礼には、「その言葉は家族だけでなく、お世話になったすべての皆さんに向けられたもの、そのように感じました」と書かれてありました。

通夜、告別式には会社関係者、県人会、大学同窓生など、100 名以上の方が見送りました。戒名は「慈恩院釋昌玄」、濱本さんのご冥福を心からお祈りいたします。合掌（深田記）

通信

第 95 回全国高校ラグビー大会 赤べこ軍団にシード校の壁

4 年振り 27 度目の出場を果たした古豪・黒工は、重量 FW を武器に、萩商工との初戦（12/28）に快勝（25-7）。

2 回戦（12/30）は昨年の覇者・東福岡で、6 年前（0-92）のリベンジ戦だったがシード校の壁は厚く、我々スタンドからの応援も届かず、21-88 で敗退。しかし、先制された直後に同点のトライを奪う意地を見せる等、零封された前回に比べ、3 本のトライは善戦に値。

目標だったベスト 8（花園で 3 連勝）は、16 年前の黒工が最後。ワールドカップ 2019 の釜石開催を控え、県勢の更なる奮起が望まれる。（事務局 H）

通信

第 88 回選抜高校野球大会 21 世紀枠で「釜石」

第 88 回選抜高校野球大会（3/20～）に、21 世紀枠で釜石高校（20 年振り 2 回目）が選出された。被災の影響が残る中での創意工夫した練習等、文武両道が評価されたものと思われる。

一般選考枠ではないとはいえ、昨秋の県大会は準優勝、東北大会は強豪の東北（宮城）に延長敗退も、その粘り強い戦いぶりから、甲子園での活躍が待たれる。